

「現実」「事実」「真実」 ～「フェイク」への認識について～

シンキング・バース
日本語研究班

ニュース・メディアは 「事実」を伝える

あ る出来事が起こった時、メディアは、何を伝えようとするのでしょうか。ボクたちの先輩は、その出来事をニュースとして伝える場合、「事実 (fact)」を伝えると言います。ニュース・メディアの役割は、「事実」を伝えることにあります。個人的な考え方や主張は二の次にして、その出来事をありのままに伝えることが、ニュース・メディアの役割と言うのです。

ボクは、その姿勢には賛同します。ニュースを綴る日本語は、小説や映画のシナリオを書いている訳ではないのですから、面白さなど不要です。「おとぎ話書いてんじゃねえよ」という諸先輩の叱責は、ニュース・メディアを担う人を育てるためには、必須の叱責と言えます。

●先輩の切り分け方

と ころで、ボクたちの先輩が口にした「事実」という日本語は、何を指して使われているのでしょうか。似たような日本語として、「現実 (reality)」「真実 (truth)」があります。ボクは、そのことを先輩に尋ねてみました。すると、先輩はこう答えました。「現実というのは、ある人にとっての現実

だよ。僕の現実と君の現実がちがう。そのちがいを見ないで、僕の現実だけを書くのは、ニュースとは言わない。真実というのは、目には見えにくいものだからね。それを書くための裏づけは、難しいよね。どこまで客観性があるのか、判定できない要素が大きいと思うよ」ボクは一応、なるほど、と思いました。



●「フェイク」を分類する

ボクたちは最近、「フェイク・ニュース」ということばを耳にする機会が増えました。「事実まがいのニュース」「嘘のニュース」という意味ですが、ある国の大統領は、メディアのニュースを「フェイク」と非難してはばかりません。

この事態は、真面目に考える必要がある事態です。そこには、三つのフェイクが潜んでいると考えるのです。

- ① 明らかな嘘を故意に流布する
- ② 意図的ではないが結果的に嘘になる
- ③ 嘘ではないことを故意に嘘と言う

ニュースという観点から見ると、①は問題外です。ほぼ愉快犯に近く、虚実混同の精神作用が起こす行動なのでしょう。妄想フィクションを、実際の出来事と思わせたいのですから、限りなく犯罪に近いとボクは考えます。リテラシーが必要なのです。

②は、時にはメディアでさえ犯すことが

ある過ちです。一般的には「ミス（誤謬）」と言われ、思い込みや周囲の意見作用などで起こります。大きなミスになると、「冤罪」に繋がります。

ある国の大統領発言で問題視されているのが、③です。ある「事実」を突きつけられ、それを否定したい心情に駆られることは、誰にでも起こる可能性があります。また、自分の身の回りの「現実」は、伝えられている「事実」とはちがう、という認識を持つことも、誰にでも起こる可能性があります。人はその時、「伝えられていることは事実ではない」と反論したくなるのです。

●主体的「現実」と客体的「事実」

伝

えられている「事実」は、自分が見聞きしている「現実」とはちがうという認識は、どちらが本当のことなのか、と

いう問いをボクたちに突きつけます。

ボクたちは何度か、「主体表現」と「客体表現」ということばを使って来ました。ニュース・メディアは基本的に、客体表現を心掛けて報道していると考えています。

例えば、「痛いんだよ」は主体表現です。そして、「痛いんだよ、と彼は言った」は客体表現です。主体表現の場合は、実際に感じている痛みを表現しています。しかし、客体表現の場合は、痛みを感じているのは彼です。筆者は、彼がどこがどのように痛いのかを、想像するしかないのです。

メディアが使う用語で言えば、彼の痛みは、彼にとっての「現実」です。そして、彼が痛みを抱えて、それを訴えていることが「事実」です。

ボクたちの先輩が、ニュース・メディアの役割は「事実」を伝えることと言うのは、彼の痛みを伝えることではなく、彼が痛いと訴えていることを伝えることにある、と

考えているからでしょう。確かに、実感できない彼の痛みを、彼に代わって伝えることは、基本的には不可能です。

ボクたちは、ある国の大統領が、ニュース・メディアが伝えることを「フェイク」と断じるのは、「現実の痛みを伝えていない」と言っているのと同じ、と推測します。だから、「自分の痛みは自分で伝えるしかない」という判断から、数々のツイートを繰り返すのでしょう。

ニュース・メディアの役割は、彼の痛みではなく、彼が痛みを訴えていることを伝えること。彼が痛みの概要を説明すれば、それを伝えることはできます。しかし、その説明が適切か不適切かは、判断できません。当事者の痛み（現実）を適切に伝え切れないことを、「フェイク」と断じるのであれば、メディアを敵に回したとみなされて、やむを得ないと思います。

●機械的に「真実」

で

は、「真実」とは何なのでしょう。ボクたちは、これまでの説明で欠けている部分が「真実」と考えました。先輩は、「目に見えにくく、裏づけをとるのが難しい」と言います。そこで、ボクたちは、プログラミングの「真 (true)」と「偽 (false)」を想定してみました。

「真偽」は条件分岐と言われ、ある条件に合致する場合は「真」、それ以外は「偽」です。電子的処理なので、機械的です。例えば「痛いんだよ」は、「痛いんだよ、と彼は言った」の主体変換に関わりなく、「痛い」を含むから「真」、「痛くない」は「痛い」を含まないので「偽」です。この場合の真実は「痛い」です。

でも先輩は、設定一つで変えられる「真実」が「真実」と言えるか、と一喝でした。

シンキング・バース新書

ボクとワタシの日本語診断
「現実」「事実」「真実」

2018年8月31日（初版）発行

著者：シンキング・バース
日本語研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バース**

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。